

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4771800077
法人名	有限会社 サクセス
事業所名	グループホームくばの里
所在地	沖縄県国頭郡金武町字金武4196-26 (電話)098-968-6513
評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年4月28日

## 【情報提供票より】(平成20年3月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	RC 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	金武町立金武診療所(医)ほくと会北部病院、福岡歯科、(医)敬愛会中頭病院
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

金武町の昔ながらの住宅地に位置し、敷地も広く、恵まれた環境にあるホームである。狭い路地がホームの位置を分かりづらくしているが、適所に設置された案内板が役立っている。室内も明るくゆったりとした空間の広がり心地良い。管理者、職員共に、積極的に利用者や家族と関わっており、介護計画が日々のプランに活かされている様子が、利用者のイキイキとした表情から伺われる。地域との交流も行事等を通して盛んである。今後は認知症への理解を深める啓蒙活動や、積極的な運営推進会議の活用等を通して、地域密着型サービスの拠点となることをお願いしたい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題として挙げられていた「運営理念の啓発」に関しては、継続して取り組みをお願いしたい。その他の課題については、介護計画書や個別の記録が充実する等、職員の改善に向けての努力が見られる。更に案内板の設置や自治会への加入等、改善点への努力を評価したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員が各自で行い、その中で一人一人の気づきも多く自己のケアの現状認識につなげている。前回の外部評価も改善シートを作成して全員で改善に向けて取組み、今回の自己評価では努力の跡が伺われる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまで半年に1回開催し、ホームの現況報告と防災や地域の情報収集、利用者への対応等のアドバイスを得てきた。自己評価や外部評価の報告は今のところ行われていない。地域密着の協力体制の確保という点からも、2ヶ月に1回の定期開催に向けて、日程調整をお願いしたい。また年1回の自己評価と外部評価はケアの原点に立ち返る意味でも、会議で報告し、意見交換等を通してサービスの向上に向けた取り組みへ活かしていただきたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を玄関に設置しているが利用はほとんど無く、メモ書きや電話、面会時に直接管理者や職員に意見等を伝える家族が多い。職員も必ず面会者と対話して、要望や気になる点などの意見を伺うようにしている。それを介護計画や日々のケアに活かし、運営へも反映している。毎月発行している『くばの里だより』やホームページでホームの様子をこまめに広報し、個別の写真を送付するなど、家族へ対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の加入、清掃活動への参加、福祉まつりの作品の出展、さらには地域の保育園児との交流も行われている。今後は地域の中で、認知症への理解を深める啓蒙活動や、さらにホーム近隣の人たちとの連携を密にして、災害時を含めた利用者の救助等、協力関係を積極的に進めることをお願いしたい。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を経営理念と介護理念に分け、経営理念に町木のくばの木のように地域に根ざした、ゆったりとした生活の支援が謳われており、介護理念には日々のケアの具体的な目標が記されているので、理念というよりは介護方針として受け取れる。	○	理念は事業所全体で共有する最も大切な目標であり、理念を実現するための具体的な方針が介護理念に謳われているので、理念と方針は明確に分けて、日々のケアの取り組みに活かしていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や記録室等に掲示し、朝のミーティングで読み合わせをしており、また日常的に職員同士がお互いのケアに注意を喚起して、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への加入で清掃活動等に参加し、福祉祭りではホームのブースも準備されていて、利用者の作品を出展し、見学にも訪れている。保育園児の訪問も年に数回あり、エイサーや近隣のデイサービスの利用者との交流もしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はスタッフ全員で行い管理者がまとめている。その中で気づきも多く、自己のケアの現状認識につなげている。前回の外部評価も改善シートを作成して、全員で改善に向けての努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の日程調整が難しいため半年に1回の割合で開催し、ホームの現況報告と防災や地域の情報収集、利用者への対応等のアドバイスを得ている。自己評価や外部評価の報告は今のところ行われていない。	○	地域密着の協力体制の確保という点からも、2ヶ月に1回の定期開催に向けて、日程調整をお願いしたい。また年1回の自己評価と外部評価はケアの原点に立ち返る意味でも、会議で報告し、意見交換等を通してサービスの向上に向けた取り組みへ活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括との連携を持ち、2ヶ月に1回の地域ケア会議へ出席し情報交換を行っている。また防災訓練等のアドバイスを受けるなど、サービスの向上に役立っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している『くばの里だより』やホームページでホームの様子をこまめに広報し、家族には個別の写真を送付している。体調の変化や日用品の補充等は随時家族に連絡し、需要に応じて金銭管理を行い報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置しているが、利用はほとんど無く、メモ書きや電話、面会時に直接管理者や職員に話す家族が多い。職員も必ず面会者と会話して、要望や気になる点などの意見を伺うようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はできるだけ少なくし、代わる際には朝の集いであいさつをして、動揺を与えないよう努力している。異動した職員も時々ホームを訪ね、利用者と関係を保つようになっている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症や認知症ケアの研修等に参加し、受講後は必ず他の職員に向けての研修報告を行って、情報の共有に努めている。</p>	○	<p>新人研修、現任研修を含めた年間の研修計画を立て、外部研修への参加と同時に、ホーム内での勉強会的な研修も定期的で開催し、計画的な研修がなされることをお願いしたい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し研修会への参加や、月1回の法人内のディサービス職員との交流会、町内の地域ケア会議への出席、また、他のグループホーム訪問等を通して、積極的に交流している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	始めは家族が見学しその後本人を伴うが、無理強いすることなく、徐々に時間をかけて慣れてもらうよう努めている。入居当時は食事や就寝時には傍らに付き添い、家族の面会時にも会話に加わって、利用者の情報を得る努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アセスメントやその後の情報等で得られた利用者の生活歴や残存能力から、可能な役割と得意な仕事を見出し、菜園の肥料作りや日常の料理方法等、利用者から学ぶことで支えあう関係作りが行われている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや訪問時の家族からの情報、または日常のレクの様子などから、本人の思いや希望を汲み取り、支援に繋げている。また入浴や生活リハビリへの参加も本人の意向を優先させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人の意向や家族との面談等で課題を把握し、業務日誌やスタッフの意見を基に作成され、生活リハビリを始め、日々のケアにも活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は目標とサービス内容、実施状況、モニタリングを通して適切に見直しが行われており、それ以前の変化に対しては状況に応じて、その都度計画に追加して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族のいない利用者への病院受診時の付き添いや、ピクニック等のドライブ時に自宅訪問を組み込む等、また、徘徊のある利用者へはさり気なく同行するなど、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医との連携は取れており、必要な利用者には受診時に同行し、状況を説明している。緊急時には救急車にて受入病院への搬送をお願いしている。		
19	47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りケアに関する指針」を定めて、医療との連携の中で家族や職員も含めて、全員で方針を共有している。これまで1人の利用者について同意を得て対応したが、容態急変時に病院搬送となり、ホームでの看取りはまだ行われていない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアで、言葉かけなど利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。特に失禁等はさり気無く誘導し、着換えさせるよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク、食事やリハビリ等、利用者本人の意向を大切に支援している。レク(カラオケやパズル)や入浴時間等は日々確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な利用者と自立している利用者それぞれに、適切な声かけをしながら食事が楽しくなるよう支援している。また利用者はそれぞれのペースで席につき、箸やスプーンなど利用して食し、可能な限り下膳に協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の入浴日はあるが、利用者の意向に添った入浴の支援をしている。夜間の入浴は人員配置的に厳しいが、失禁時のシャワーでの半身浴は行っている。浴槽は今のところ希望者がいないため利用していない。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人の意に任せて、新聞取りや暦の日めくり担当、食器洗いやテーブル拭き、もやしのつくろいや菜園の水やり等の支援をしている。生活リハビリでも自立歩行の利用者が車椅子の介助をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内や向かいのディサービスへはよく行き来しており、時折、近隣へも散歩している。別のホームへ移った利用者の面会や、ドライブ等には全員で出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく日中は施錠しないようにしているが、入浴時の見守り体制が手薄になる際に、一時的に施錠することもある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署との非難訓練や避難経路等のマニュアルもきちんとできているが、地域の協力体制を築くまでには至っていない。	○	夜間は1人の人員配置となるので、近隣に同法人の別施設もあり職員間の連携は取れているが、災害時には人手を要するので、日頃より近隣の協力体制を培う努力をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事記録や毎月の体重測定、栄養士による献立表の指導、日に数回の水分補給等、利用者一人一人にあった支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は明るくゆったりとした空間が広がり、事務室や厨房を囲む回廊もガラス越しに目が行き届き、水周り等もバリアフリー構造で心地良い。カウンターには生花が飾られ、随所に工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたベッドを持ち込んだり、タンスのレイアウトを変える利用者もおり、それぞれが居心地の良い空間作りをしている。		